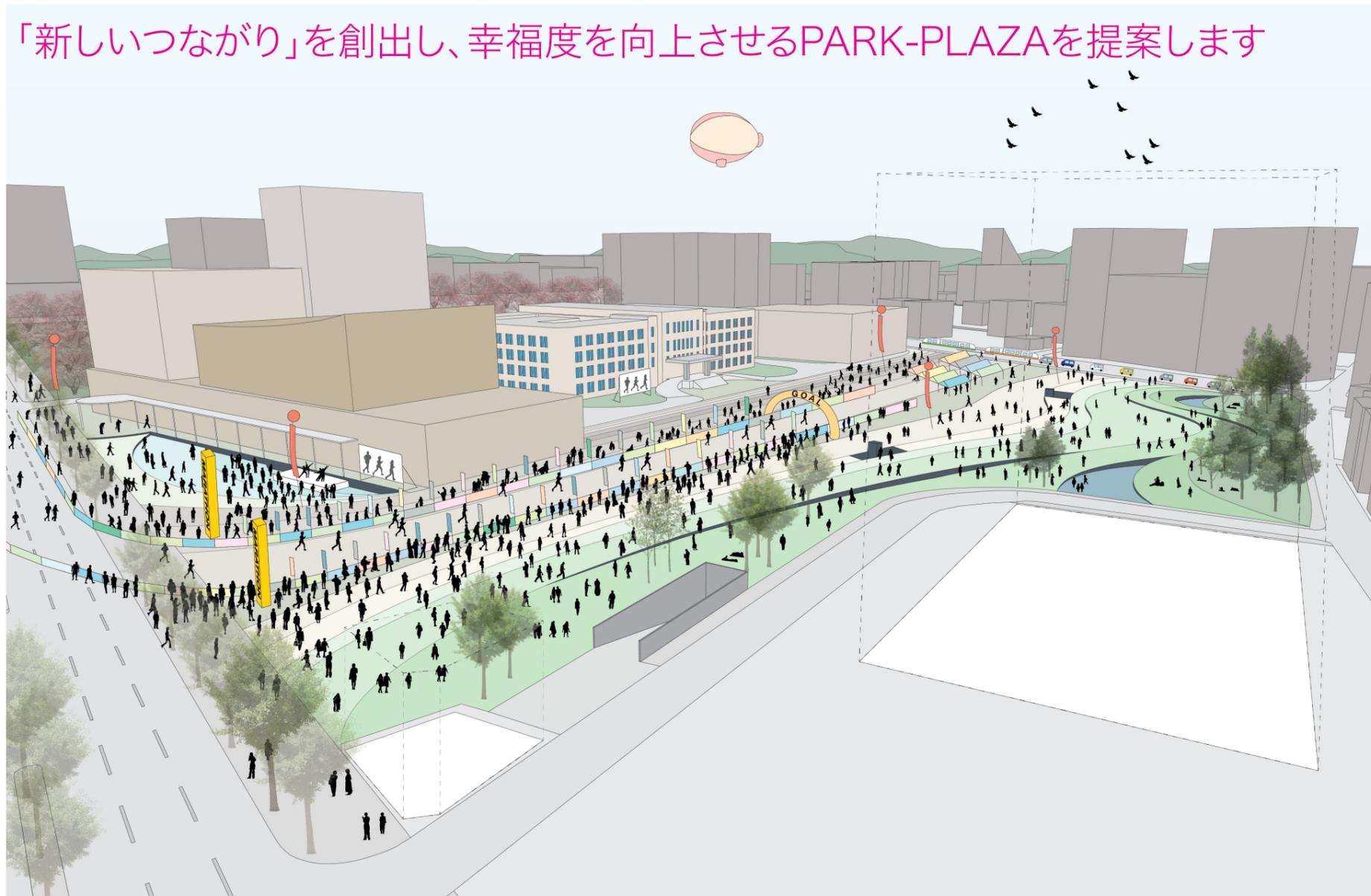


「新しいつながり」を創出し、幸福度を向上させるPARK-PLAZAを提案します



鳥瞰イメージ

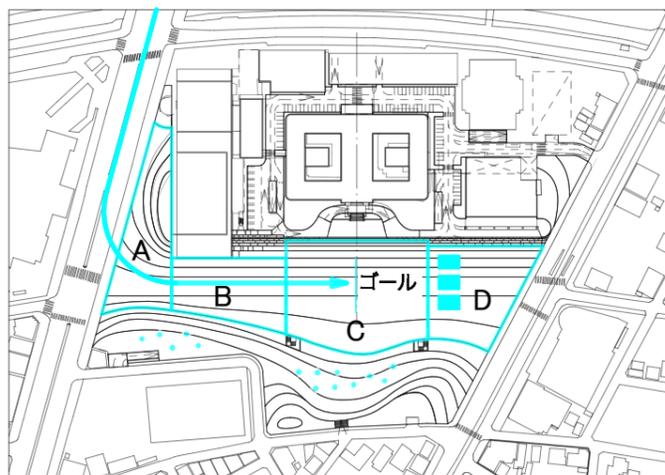


海のイベントステージ 段差をつけ城址大通りから見下ろすことができる

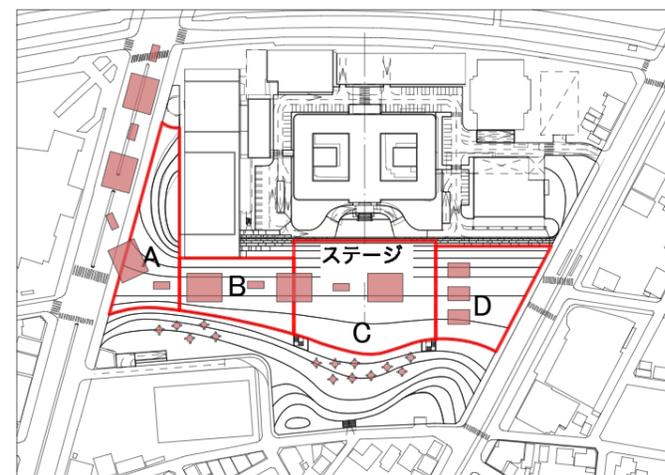


山林ゾーン 富山を代表する樹木を植え、森林浴ができる空間をつくる

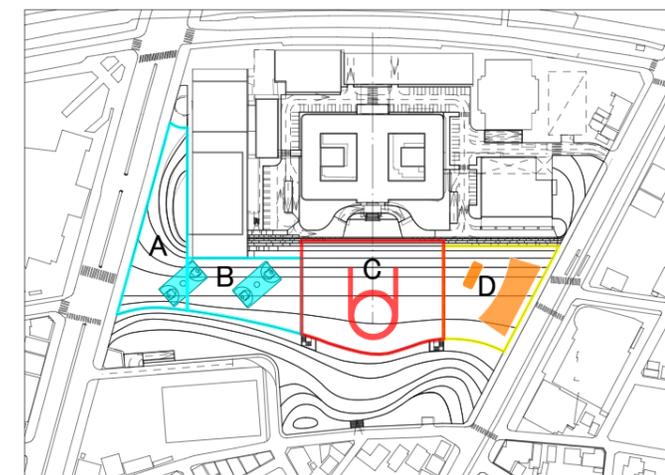
プラザの使い方バリエーションの提案



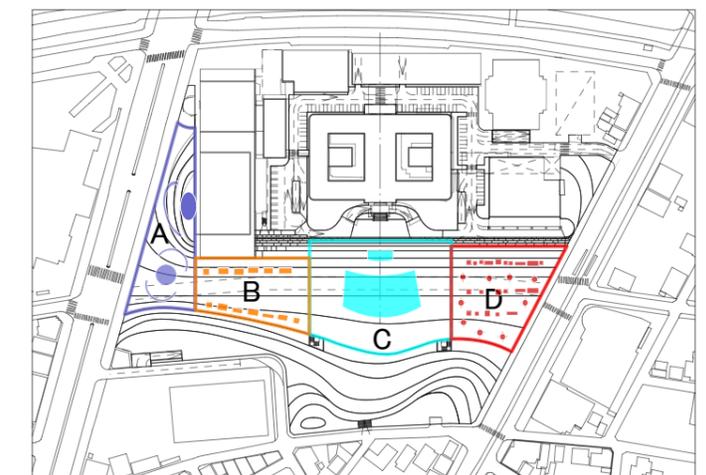
マラソン大会のゴールとして  
AからDのエリアを一体利用する



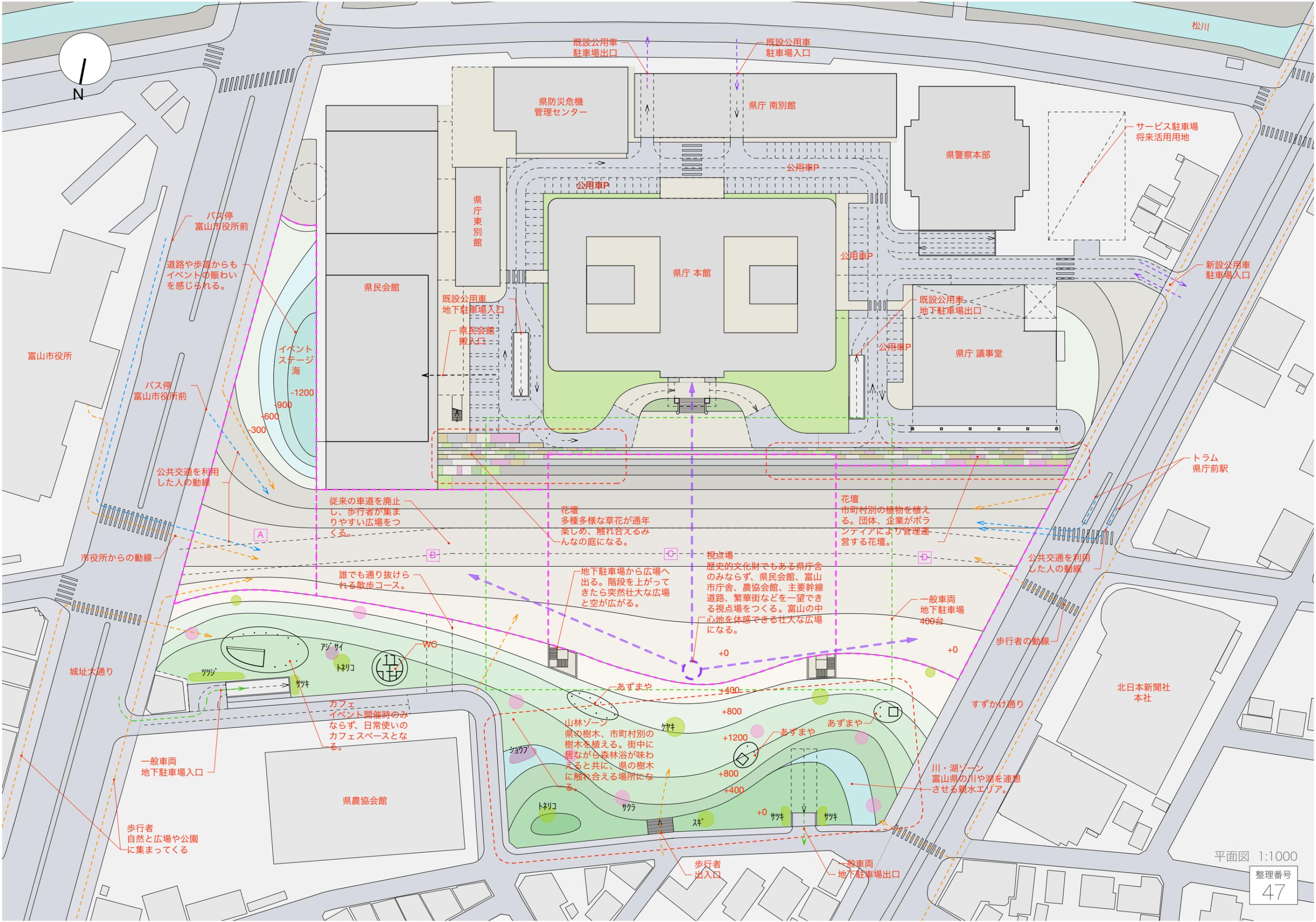
大規模なまつりのイベントスペースとして  
たとえば「よさこい」のメインステージを設営する



分割利用パターンA  
AとBはバスケットボールの大会に利用  
Cはランバイク大会、Dはコンサート



分割利用パターンB  
Aは大道芸 Bはマルシェ  
Cはライブ Dはフードイベント



バス停  
富山市役所前

道路や歩道からも  
イベントの賑わい  
を感じられる。

バス停  
富山市役所前

公共交通を利用  
した人の動線

市役所からの動線

城址大通り

一般車両  
地下駐車場入口

歩行者  
自然と広場や公園  
に集まってくる

県民会館

県庁東別館

県防災危機  
管理センター

県庁 南別館

県庁 本館

県警察本部

県庁 議事堂

従来の車道を廃止し、歩行者が集まりやすい広場をつくる。

花壇  
多種多様な草花が通年  
楽しみ、触れ合えるみ  
んなの庭になる。

花壇  
市町村別の植物を植える。団体、企業がボランティアにより管理運営する花壇。

誰でも通り抜けられる散歩コース。

地下駐車場から広場へ出る。階段を上がってきたら突然壮大な広場と空が広がる。

視点場  
歴史的な文化財でもある県庁舎のみならず、県民会館、富山市庁舎、農協会館、主要幹線道路、繁華街などを一望できる視点場をつくる。富山の中心地を体感できる壮大な広場になる。

公共交通を利用した人の動線

歩行者の動線

カフェ  
イベント開催時のみならず、日常使いのカフェスペースとなる。

山林ゾーン  
県の樹木、市町村別の樹木を植える。街中に居ながら森林浴が味わえ、共に、県の樹木に触れ合える場所になる。

川・湖ゾーン  
富山県の川や湖を連想させる親水エリア。

歩行者  
出入口

一般車両  
地下駐車場出口

平面図 1:1000

整理番号  
47

# 設計趣旨

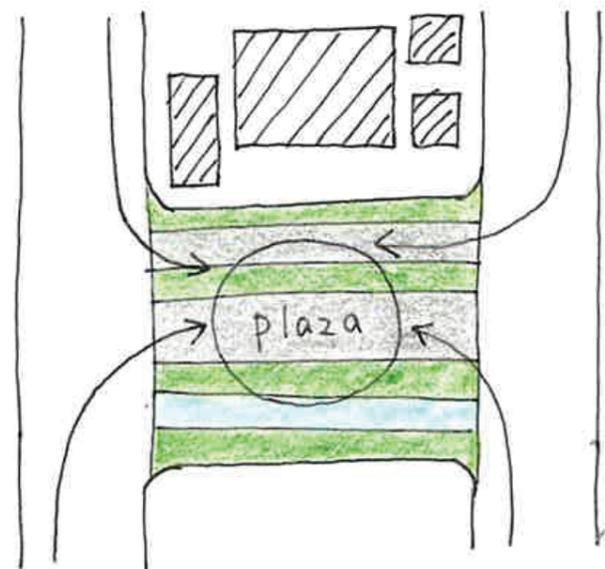
## 富山の原風景をつくるストライプデザイン

春の四重奏や雨晴海岸の義経岩・女岩越しに望む立山連峰など、山、海、陸地、川、花や草木などがストライプ状に積層する文化的景観が富山県の原風景として親しまれています。そこで本計画においては、ストライプ状のデザインを提案し、富山の原風景を再構築することを目指します。ストライプ状のデザインは、周囲の街並みをふたたび繋ぎ、都市の一体感の醸成に寄与します。



などにより設備の更新や、成長した樹木が周辺の街並を視覚的に分断していますなどの問題があります。その恵まれた立地にかかわらず、うまく利活用できていません。県庁前=富山県の中心というこの場所固有のキャラクターを最大限に活用するため、広場空間として広大なパブリックスペース=「ひろば」を提案します。この広場は県民憩いのスペースとして活用されますが、分断されている官庁街/歓楽街/オフィス街と周辺エリアを再び接続します。また、大規模から小規模なイベントまで、様々な規模のイベントに対応できる空間として、柔軟な運用を実現します。大きな広場をAからDの4つのゾーンに分割し、エリアごとに利用することもできれば、AからDをすべて含めた一体利用も可能とする空間とし、小規模なフードイベントからマラソンやよさこいなどの大規模なイベントまで対応できる空間とします。

立県のレガシーである県庁舎を背景に様々なイベントに活用することで、県都に「祝祭性」を創出し、さらには県民のシビックプライドを醸成し、幸福度向上に寄与します。



## 「5つのP」= 5Ps = Go Peace

現在の県庁前公園は戦災復興土地区画整理事業によって整備された都市公園です。当時の平和(=Peace)への願いを継承しつつ、安心や喜びを与えつづける都市公園となってほしいとの願いを込め、つぎの「5つのP」をテーマとした空間づくりを提案します。

## Plaza / ひろば

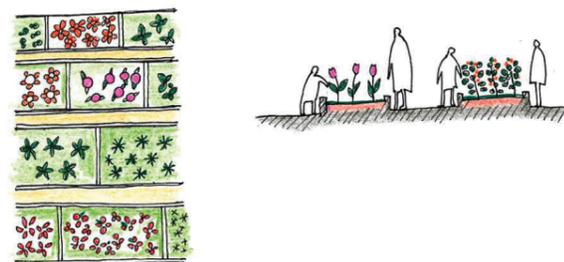
県庁前公園は大きな杉林、花の時計台、そして大噴水など、長きにわたり県民に親しまれてきました。しかし、老朽化



## Park / 公園

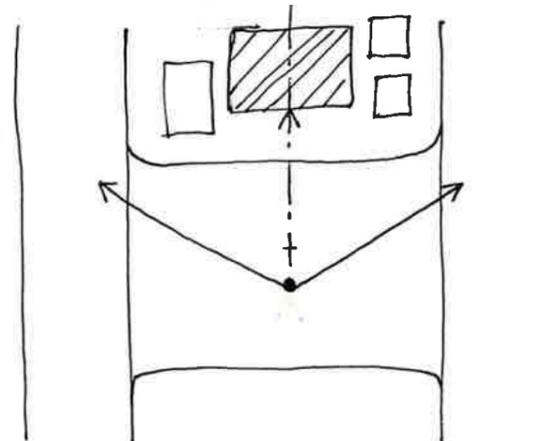
この計画では、広場的側面に加えて、かつての「都市公園」としてのDNAも継承します。そこで鍵になるのが富山の豊かな文化的景観を、デザインの・視覚的・体験的に再構成する手法です。

そこで富山の豊かな植生を活かした植栽計画を提案します。たとえば、各市町村の花木を花壇に植えることで、「県都の公園」であることを表現します。これらの花壇においては、故郷を愛する自治体、団体、企業がボランティアにより管理運営する花壇とし、参加を通じた公園づくりを行うことを目指します。また、従来は児童から花時計のデザインを公募していました。その歴史を受継ぎ、花壇デザイン提案も児童から募ります。また、山林ゾーンではスギ、ケヤキ、トネリコ、ツツジ、サクラなど富山を代表する木々を植樹し、森林浴ができる空間を整備します。



## Perspective / 眺望と視点場

この県庁前広場には、県庁舎本館のみならず、県民会館や富山市庁舎、富山県議会議事堂、県警本部、農協会館、新聞社屋など富山を代表する建造物、さらには2本の幹線道路や周囲の繁華街などを見渡すことができる場所です。これら建造物を一望できるPerspective=視点場をつくることで、富山の中心地を体感できる壮大な広場とします。



## Parking / 駐車および交通計画

広場空間を有効に活用するために、既設の道路および地上型駐車場を廃止することを提案します。通過交通は近隣の幹線道路に振り分け、また一般利用者向けに約400台を収容できる地下駐車場を整備し、広場空間の有効な活用を促します。公園としての利便性を高め、既成の施設がさらに利用しやすくなる計画とします。

一方、公用車などの駐車場は再整備を行い、松川側およびすずかけ通り側からアクセスできる計画とします。一般車/公用車の駐車計画を明確に分離することで、来訪者にとってわかりやすい計画とします。

## Prevention / 防災・減災

このPark=Plazaは災害時には防災拠点として活用できるように整備します。たとえば地下駐車場の部分は、大雨の際には調整池として作用し、敷地内および周囲の雨水排水を一時的に貯留し、オリフィスを通して緩やかに排水することで、富山市中心部の水害リスクの低減に務めます。また地上部分は災害車両の待機基地として活用することができ、大規模災害が発生した際には防災拠点として活用できる計画とします。

